

# シンフォニー

第 **46** 号  
年3回発行(1月・5月・9月)



発行/医療法人社団協友会 彩の国東大宮メディカルセンター 編集/広報委員会  
〒331-8577 埼玉県さいたま市北区土呂町1522 TEL.048-665-6111 FAX.048-665-6112 <https://www.shmc.jp>

## 特集

Feature Articles

## 感謝の心



院長 藤岡 丞

この度の新型コロナウイルスの院内感染では、地域のみなさんに多大なご迷惑とご心配をおかけし、大変に申しわけありませんでした。また亡くなられた方のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。

当院ではこれまで、医療安全と感染対策には特に力を入れて取り組んできました。今回も、新型コロナウイルスが話題になった1月には対策本部を立ち上げ、さまざまな取り組みを行ってきました。

そのような中で院内感染を起こしてしまったことに、院長として大きな衝撃を受けています。今にして思えば、どこかに「これだけやっているから大丈夫だろう」という慢心があったのかもしれない。

院内感染が判明してからは、外部の専門家の指導もいただ

きながら、さらに職員の手指衛生を徹底し、ゾーニングを厳格に守り、また防護服の着脱に細心の注意を払うことで、なんとか終息宣言を出すことができました。

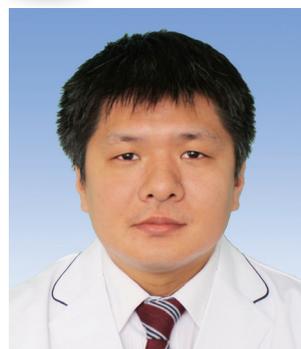
この間、私たちを支えてくれたのは、地域のみなさんからのたくさんの方の応援でした。マスコミの報道があつてから、連日たくさんの方のメッセージや手作りの防護服が届き、私たちを勇気づけてくれました。感動の涙を浮かべながら「明日も頑張る」と言ってくれた職員たちの姿は忘れられません。

私自身も、病院は地域のみなさんに支えられていることを改めて実感しました。常に感謝の心を忘れず、さらに安全で安心な医療を提供していくことで、地域のお役に立ちたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

**新型コロナウイルス感染症に負けず、  
安心で安全な医療を地域の皆さまへ提供するため  
職員一丸となつて努力を続けてまいります。**



腎臓内科

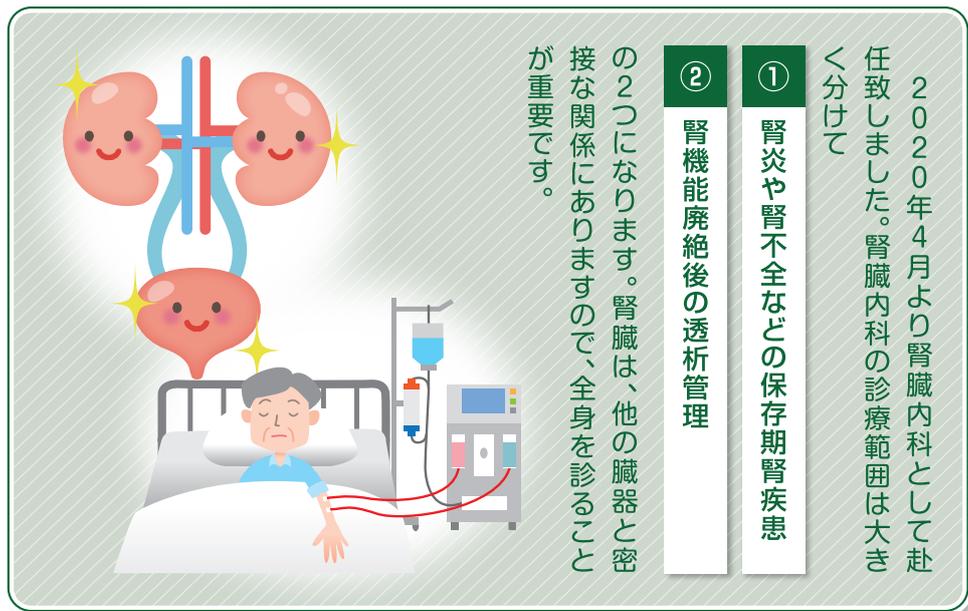


腎臓内科  
佐藤 裕行

2020年4月より腎臓内科として赴任致しました。腎臓内科の診療範囲は大きく分けて

- ① 腎炎や腎不全などの保存期腎疾患
- ② 腎機能廃絶後の透析管理

の2つになります。腎臓は、他の臓器と密接な関係にありますので、全身を診ることが重要です。



腎疾患

「じんしゅかん」

腎臓が悪くなるとまず尿にたんぱくが出る「尿蛋白」や、尿に血液が混じる「尿潜血」が出現します。これらの初期兆候を放置すると、年単位の長い期間を経て腎不全になります。腎不全は最終的に腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）が必要になります。ここまでの進行を防ぐため、尿所見異常のみの時点で診断を行い、適切な介入するのが腎臓内科の主な役割です。

「尿蛋白」や「尿潜血」になる原因はなに？



大半は糖尿病や高血圧などの一般的な生活習慣病が原因となります。他に腎臓特有の疾患、リウマチ膠原病、薬剤の影響により出現することもあります。

診断方法は？



病状と血液検査や尿検査に加えて腹部超音波検査で診断します。しかし明らかに腎臓の炎症を疑う場合には「腎生検」を行います。腎生検とは腎臓に専用の針を刺し、腎臓の細胞を採取して顕微鏡を用いて診断する検査方法です。これにより実際の腎臓の状態をより詳しく知ることができ、様々な病態や治療方法を決定する材料となります。

それでも腎機能が悪化する時には？



このような診断・治療を行っても腎機能は悪くなる場合があります。少しでも進行を遅らせるため、薬の服用だけでなく食事療法などの生活指導を行っています。また、やむを得ず透析療法が必要となる場合には、腎代替療法の説明を十分に行った後、しかるべき時に透析導入となります。



血液透析

「けつえきとうせき」

腎機能が廃絶してしまうと全身に尿毒素という毒が貯留し、最悪の場合には1週間程度で心肺停止に至ります。この尿毒素を除去するために、腎臓の代わりとなる治療を行うことを腎代替療法といっています。

当院では腎代替療法のうち血液透析のみを行っています。週3回、1回4時間の治療を標準とします。当センターでは日本透析医学会のガイドラインに準拠し、ベストな治療を提供するよう心がけています。



## よりよい病院をめざして

### 当院の新型コロナウイルスの感染対策としての取り組み



日頃より当院の感染対策にご協力いただきありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症は、発熱や風邪症状が出現する48時間前にはすでに強い感染力を持っています。さらに、感染しても無症状の場合も多く、気付かないうちに拡がる危険性の高い感染症です。そのため、日頃から手指衛生やマスクの着用、密を回避する行動を実践していくことが大切です。これからも、患者さまの安全を確保し、地域の皆様に安心して受診していただけるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。ご理解とご協力を承りますようよろしくお願いいたします。



感染管理課 鍋田 科長

### 当院での新型コロナウイルスの感染対策としての取り組み

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <p><b>1</b></p> <p>すべての方に手指衛生とマスクの着用をお願いしています</p>                          | <p><b>2</b></p> <p>院内へ入る際の体温測定と手指消毒を実施しています</p>         | <p><b>3</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症を疑う症状がある方は一般の待合室とは違う場所で待機してもらっています</p> |
| <p><b>4</b></p> <p>外来待合が密にならない工夫をしています。(例として午前中の混雑を緩和するため採血ブースを分散しました)</p> | <p><b>5</b></p> <p>人の手が多く触れる場所の清掃を定期的実施しています</p>        | <p><b>6</b></p> <p>すべての受付に飛沫感染防止のためのスクリーンを設置しています</p>                 |
| <p><b>7</b></p> <p>すべての職員は手指衛生や場面ごとに必要な个人防护具(マスクやアイシールドなど)を徹底しています</p>     | <p><b>8</b></p> <p>職員の出勤時には体温測定を実施し体調不良の有無の確認をしています</p> | <p><b>9</b></p> <p>原則面会禁止とし面会制限をしています</p>                             |

### 8月よりご協力よろしくお願いたします。

検温装置 (MONITARO) での体温測定を実施しています。

救急入り口の閉鎖を行っています。



顎マスク



鼻がでている



正しい付け方

院内では、正しいマスクの着用をお願いしています

## 患者教室のご案内 (ミニセミナー)

感染症対策のため、患者教室は当面の間、中止させていただきます。  
開催日が決定次第、当院ホームページによりお知らせしますので、よろしくお願い致します。



## 診療実績

(2020年4月~2020年7月平均)

入院稼働率 ..... 78.0%  
1日平均入院患者数 .. 262.9人  
平均在院日数 ..... 16.8日  
1日平均外来患者数 .. 453.3人  
救急搬送件数 ..... 385件/月  
手術件数 ..... 199件/月  
紹介患者数 ..... 522件/月

## 脳血管内治療センターを立ち上げました。

2020年4月より脳血管内治療センターが開設されました。脳血管内治療専門医2名(センター長/後藤昌三、医師/森岡 暁子)赴任し、急性期脳梗塞に対する脳血栓回収療法も積極的に取り組んでいます。どうぞよろしくお願いいたします。



医師 森岡 暁子      センター長 後藤 昌三      医師 工藤 琢巳

### 交通案内図



**JR**  
宇都宮線・湘南新宿ライン・上野東京ライン  
「土呂駅」東口より 徒歩約11分

**東武アーバンパークライン**  
「大宮公園駅」より 徒歩約9分

**自動車**  
首都高速埼玉新都心線「さいたま見沼」ICより 約18分  
東北自動車道「岩槻」ICより 約21分

